

まだ見ぬ父へ抱く想いは
愛、それとも殺意。

Elisa

エリザ

ヴァネッサ・パラディ

ジャン・ベッケル監督作品 ジェラルド・ドパルデュ

製作/クリスチャン・フェッシュネール 出演/クロティルド・クロー セクー・サル フロランスト・マサン ヴェルナー・シュライヤー ミシェル・ブーケ フィリップ・レオタール 脚本/ジャン・ベッケル ファブリス・カラソ
(ノベライゼーション/集英社刊) 撮影/エティエンヌ・ベッケル AFC 美術/テレーズ・リボ 編集/ジャック・ウイタ 音響/ジャン＝ルイ・ユジェット 録音/ウィリアム・フラジョレ
音楽/ズビグニェフ・ブレイスネル セルジュ・ゲンスブール ミシェル・コロンビエ(サントラ盤/マーキュリー・ミュージックエンタテインメント) 製作監督/ヘンリ・ブリヂェッティ
製作総指揮/エルヴェ・トリフォー ティディエ・ベン 共同製作/フィルム・クリスチャン・フェッシュネール ソロ・プロダクション TF1フィルムズ・プロダクション キャナル+ BNPイマー・ジュ2
後援/フランス大使館 ユニフランス 協力/日本コロムビア 提供/KUZUIエンタープライズ テレビ東京 配給/KUZUIエンタープライズ

©1994 FILMS CHRISTIAN FECHNER-SOLO PRODUCTIONS-TF1 FILMS PRODUCTION

DOLBY STEREO
IN SELECTED THEATRES

KUZUI
ENTERTAINMENT

エリザ

ヴァネッサ、22歳の誘惑

フランスの超アイドル、ヴァネッサ・パラディがスクリーンに戻ってきた！4枚のアルバムと1本の映画とチャンネルの広告と数々の雑誌のカヴァーとレニー・クラヴィッツとの噂を経て、22歳になったヴァネッサ。「白い婚礼」以来、数々の出演オファーに「ノン」と言い続け、やっとめぐりあった6年ぶり2本目の映画がこの「エリザ」なのだ。



セルジュ・ゲンスブールに捧ぐ

「エリザ」は、今は亡きフランスのスーパースター、セルジュ・ゲンスブールの大ヒット曲をそのまま映画に冠し、ゲンスブールその人に捧げられた作品である。そもそもヴァネッサとゲンスブールの関係は、90年の彼女のセカンド・アルバム「ヴァリアシオン」に遡る。12曲中カヴァー1曲を除く11曲をゲンスブールが作詞。フランス・ギャル、プリジット・バルドー、ジェーン・バーキンなどフランス芸能界を彩る美女達に曲と詞と口説き文句を提供してきたゲンスブールの、アルバム単位で関わった最後の女がヴァネッサなのだった。



現在世界で5本の指に入る男性トップモデルのヴェルナルも出演

父への復讐を想う少女、マリー

その「エリザ」が映画のテーマ曲として感動的に使われているが、エリザ役はヴァネッサではなく彼女の母親。ヴァネッサの役どころは、幼い頃に母を亡くし、孤児院に引き取られた少女マリー。不幸な境遇にあって、気の合う仲間たちと奔放に生きているが、一方では母を捨てた父を憎み、復讐を誓っていた。父を探す手掛かりは、昔、父から母に送られた一枚の絵ハガキ。そこには灯台の写真とともに、手書きの音符が書き込まれていた。そのメロディこそ、幼い頃、母がよく聞かせてくれた「エリザ」のものだった。やがて、マリーは親しい者たちと別れの儀式を終え、殺意を胸に父を探す旅に出る。



ヴァネッサの父親役にドバルデュ。果たして、娘は父を殺せるか？

父親役にはフランス映画界の大御所ジェラルド・ドバルデュ。監督は「殺意の夏」でイザベル・アジャールにセザール賞をもたらしたジャン・ベッケル。スコアは、「ふたりのペロニカ」、「トリコロール」三部作などのズビグニエフ・ブレイスネル。製作は「ポンヌフの恋人」のクリスチャン・フェシュネール。

7月22日(土)ロードショー!

特別鑑賞券 ¥1400 好評発売中 当劇場窓口及び都内各プレイガイドにてお求め下さい。
当日料金(税込)一般1800円/大・高生1500円/中学生1300円/小人及びシニア(60才以上)1000円

西武ロフト館前・渋谷三葉ビル7F
渋谷シネパレス 03 (3461) 3534

連日 10:00 12:20 2:40 5:00 7:20

